

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	公共土木施設災害復旧事業	会計	一般会計	事業No.	565	施策順No.	41-016
		事業種別	政策・その他	予算科目	11-2-10-10-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	41 災害対策の推進		事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	土木施設の災害か所						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	現状へ復帰する							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		か所数	577	80	163	197			
		災害か所数:か所	577	80	163		197		A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	公共土木施設に係る災害が210件発生し対応した。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常な天然現象(時間雨量20mmを超える降雨量若しくは24時間雨量で80mmを超える降雨量)により生じた公共土木施設災害の発生に伴い、現地調査、被災状況の把握、長野県への被災報告を経て、災害査定を受け、工事実施を行う。</li> <li>本災については、1か所の工事費が60万円以上である場合、本災扱いとなり、それ未満の災害復旧工事は単災で対応することとなる。</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 公共土木施設補助災害復旧事業 2 公共土木施設単独災害復旧事業	1 工事箇所数 2 工事箇所数	1 8カ所 2 202カ所
23年度実施計画	1 公共土木施設補助災害復旧事業 2 公共土木施設単独災害復旧事業		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金		26,886	26,886		
	県支出金					(国)公共土木施設災害復旧事業負担金(66.7/100) (地)災害復旧(充当率100%)
	起債		18,300	18,300		
	その他					
	一般財源		103,220	103,217	2,000	
	計(A)		148,406	148,403	2,000	
	正規職員所要時間					トータルコスト A+B
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
				148,403		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生後すぐに、被災か所の報告が市役所及び各自治振興センターに寄せられる。</li> </ul>
--

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、財産の災害や火災の被害を軽減する	施策の成果指標又はムトス指標	市民が災害にそなえている割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	この事業は異常な天然現象により生じた公共土木施設災害の発生に伴い、災害復旧する事業であり、早急な市民生活の復旧を目指し行うことが出来た。		
	後期に向けた課題	迅速なる市民生活の復旧。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	異常な天然現象により生じた公共土木施設災害の発生に伴い、通常業務を一時停止し、災害復旧業務に取り組む。		
	後期に向けた課題	全市的な大災害への対応。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	職員での測量及び調査、設計業務。		
	後期に向けた課題	特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	公共土木施設災害で復旧する施設は市の管理する施設であり、市の関与は当然であり、受益者負担を他に求めるものではない。		
	後期に向けた課題	特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	公共土木施設災害復旧事業の主体は飯田市。調査、設計、復旧工事完了までの役割。		
	後期に向けた課題	迅速なる市民生活の復旧。		
全体を通じて	4年間の振り返り	異常な天然現象により突発的に生じた公共土木施設災害の発生ではあるが、早急な市民生活の復旧を目指し災害復旧を行うことが出来た。		
	後期に向けた課題	迅速なる市民生活の復旧。		

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------